

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
【授業の目的・ねらい】 患者さんに検査を実施していくうえでの心得を身につける 各検査を手順どおりに実施できる。検査結果を元に基本的な評価を行うことができる							
【実務者経験】 言語聴覚士として倉敷市立病院に勤務、高次脳機能障害のリハビリテーションに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害についてより具体的な内容を理解し、評価法についての基礎知識と検査バッテリーおよびそれらの実施法を知ることが出来る							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各検査が何のために行うのかを理解し、手順どおりの実施が出来る。また、結果と高次脳機能障害を結び付けて考えることが出来る。患者さんに対する声かけや態度などを身につけることが出来る							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	検査の目的や取り組み方について説明できる、スクリーニング検査						
2	検査の目的や取り組み方について説明できる、スクリーニング検査/インテーク						
3	知能検査について実施と説明が出来る (WA I S)						
4	知能検査について実施と説明が出来る (RCPM, コース)						
5	遂行機能の検査について実施と説明が出来る (B A D S)						
6	記憶の検査について実施と説明が出来る (三宅式、S-PA、RBPM, BVRT)						
7	記憶の検査について実施と説明が出来る (WMS-R)						
8	失行、失認の検査について実施と説明が出来る						
9	前頭葉機能の検査についての実施と説明が出来る						
10	視空間認知の検査について実施と説明が出来る						
11	注意機能の検査について実施と説明が出来る						
12	情報収集、スクリーニング検査について説明できる						
13	検査結果より評価を実施できる						
14	報告書の作成が出来る①						
15	報告書の作成が出来る②						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 高次脳機能障害その評価とリハビリテーション 標準言語聴覚療法 高次脳機能障害学、							
【準備学習・時間外学習】 実施した検査については、各自道具を使用しながら手順を確認してください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 定期試験のみを実施して 60点以上の場合に科目認定とする。							